

都内下町のお花見 水元公園+帝釈天

企画委員会

コロナ制限が緩和され、ソロリとお花見をしました。場所は、都内下町葛飾の水元公園です。そして、葛飾といえば寅さんの帝釈天にも参拝しました。もちろん、そのあとは、久しぶりの懇親会を静かにもちました。

曇り空と少々雨、気温 12℃程度でやや花冷え、しかし桜は華やかに春爛漫を謳っていました。東京都と千葉県の境をなす江戸川の西側にある水元公園は、古くからの河川流路の変遷により生まれ、水郷景観がたっぷりの歴史ある地域でした。

桜の見事なトンネル

水元公園の入り口、見事な満開の桜並木でした。この華やかなお出迎え、見事！見事！今回の観桜会のファンファーレが響きました。



日時：2023年3月28日（火）日帰り
目的地：水元公園、帝釈天、矢切の渡し
集合：地下鉄千代田線金町駅北口 10時30分
解散：京成柴又駅 15時00分
参加費：なし
昼食：各自持参の弁当を水元公園のあずまやにて
費用：現地往復交通費、各自支払
参加者：14名
リーダー：Y氏

順路：集合；地下鉄千代田線金町駅北口
バス移動→水元公園→観桜散策→昼食；持参弁当→
観桜散策→水元公園入口→徒歩→帝釈天→
江戸川縁桜散策→矢切の渡し→帝釈天参道→
高木屋休憩→京成柴又駅→解散

懇親会：有志で柴又駅前の居酒屋

記念写真 水元公園

大木の桜花満開をバックにしてパチリ！
総勢14名が観桜を満喫しました。



水元公園 東京都葛飾区 東側に松戸市

都立公園で都内23区では最大規模96haで、水域面積の多い水郷公園です。四季折々にあれこれ楽しめるのが、水元公園の特徴です。春の桜につづくのが、梅雨時の花菖蒲です。案内書の通り、ポプラ並木、メタセコイア、水生植物園、バードサンクチュアリーなど自然景観にあふれていました。



江戸時代初期に利根川の流路を付け替え、河川敷を農業用地に転換した地域がここです。1729（享保14）年、江戸幕府が耕作に水を蓄えておく小合溜井（マダマ）を造成したことに由来するそうです。ここから田畑に水を供給していたので、「水の元」、転じて水元になったそうです。この時代は8代将軍徳川吉宗の時代で、幕府の財政再建の根幹である新田開発での米増収は重要施策でした。

水元公園の桜堤 水元桜堤（通称桜土手）

吉宗の命により井澤弥惣衛為永が出身地紀州の土木方法で新田開発をした際に江戸川外堤防を作り、そこに桜木を植えたのがはじまりといわれています。

今回の観桜では、桜の大木が堤の両側に並び、満開での華やかさを味わいました。桜の幹の太さと趣ある傾きは、一幅の絵画でした。



桜の築堤は、観桜に来る人々が土を踏み固め強固にすることが狙いだったそうです。安い楽しみとの一石二鳥は合理主義者の吉宗の真骨頂かもしれません。隅田川沿いや品川御殿山や飛鳥山に桜並木を植栽しています。儉約令の下、花見は安くすむという発想を諸所に実現していました。

水元公園の季節の風情

水の公園らしく、水面に映る桜、滝と桜とのコラボ、などなどいくら見ても飽きないものでした。写真でのご紹介です。

広々とした池の向こう岸に桜、手前の栈橋風のところどころに水鳥が羽を休めていました。



滝を囲んで両側に桜が満開、滝の上の新緑が輝き、手前の広々とした水面に桜をうつしていました。



魚釣りができるのも、この公園の人気の一つです。水深1m程度のところのクチボソ、ヘラブナ、タナゴ、コイ、テナガエビなどを狙って、この日も太公望らしき人たちをあちこちに見かけました。

柴又帝釈天 ご存じ映画寅さんの舞台

雨模様のためか、人出がさほど多くなくゆるりと参道を進むことができ、ゆっくりとお参りができました。最寄り駅京成柴又駅の前には、おなじみ寅さんの像、そしてさくらの像がありました。

帝釈天左手の鐘撞堂にも、桜の裾模様がありました。寅さんの映画に、必ずこの大鐘楼の音が入っています。



帝釈天の境内の桜は、満開でした。一同ゆるりと観桜です。正面右手高いところに回廊があり、ここをくぐって左手に進むと大庭園、その堀越しに伸びた枝の桜に驚きました。雨の趣にしっとりした石畳の上に、悠々と伸びるこんもりとした桜、これは絶景でした。



矢切の渡し 歌謡曲『矢切の渡し』でおなじみ

東京都と千葉県境の江戸川にある、渡船です。帝釈天から歩いて、15分ほどで到着しました。もとは、農民の行き来と帝釈天参詣が主でした。明治末期伊藤佐千夫の『野菊の墓』で一躍有名になりました。

渡しの場所には、矢切の渡しと白い字で書いた標識が立っていました。思い思いに皆で眺めました。向こう岸、千葉県松戸市の4本の土手の桜も満開でした。

